

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 6 月 20 日 8:55AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,600～39,700 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 36,500～43,000 ドル
(S&P500) 4600～6150

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 17,600～22,200
(ナスダック総合) 15,700～20,000

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 130.000～146.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～100.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

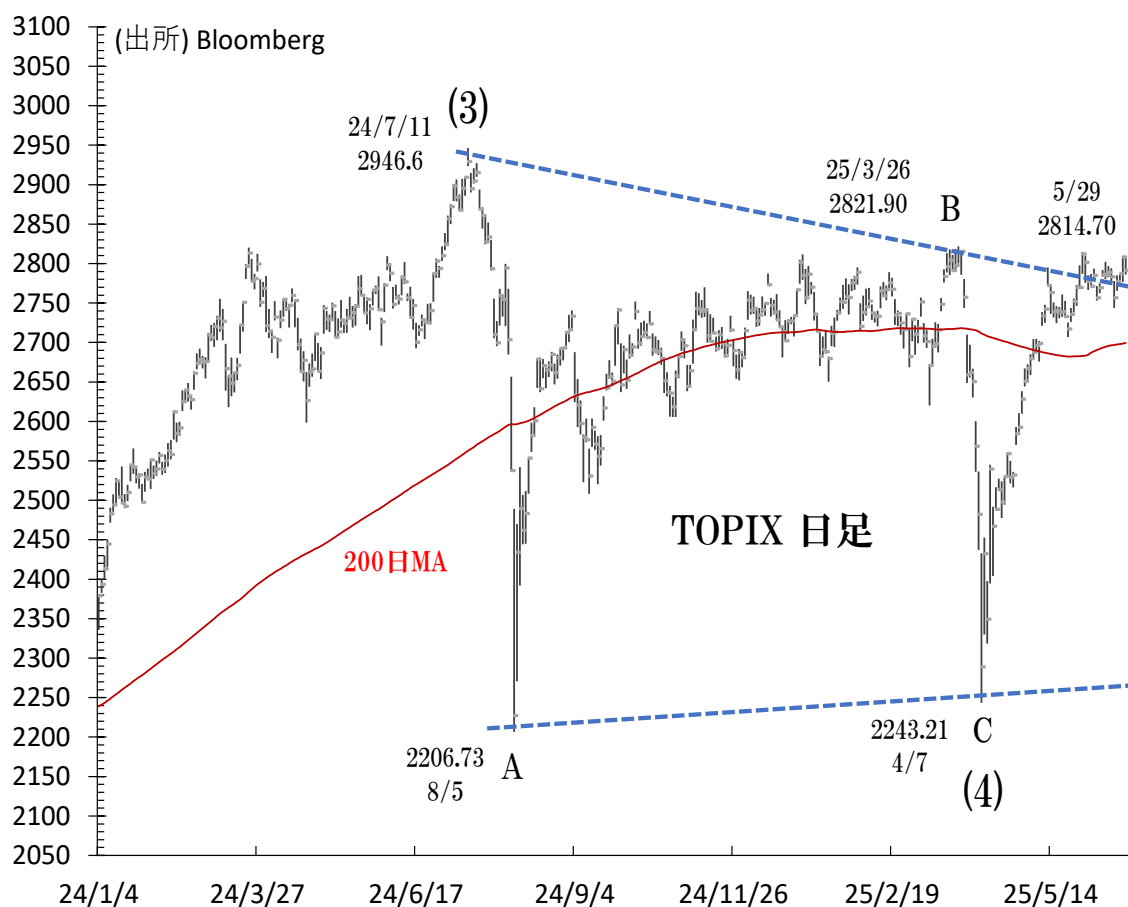
日経平均は、重要サポートとしての 200 週 MA を上回って推移しています。同 MA を今後も維持する限り、プライマリー上昇③波は依然継続中とみられます。

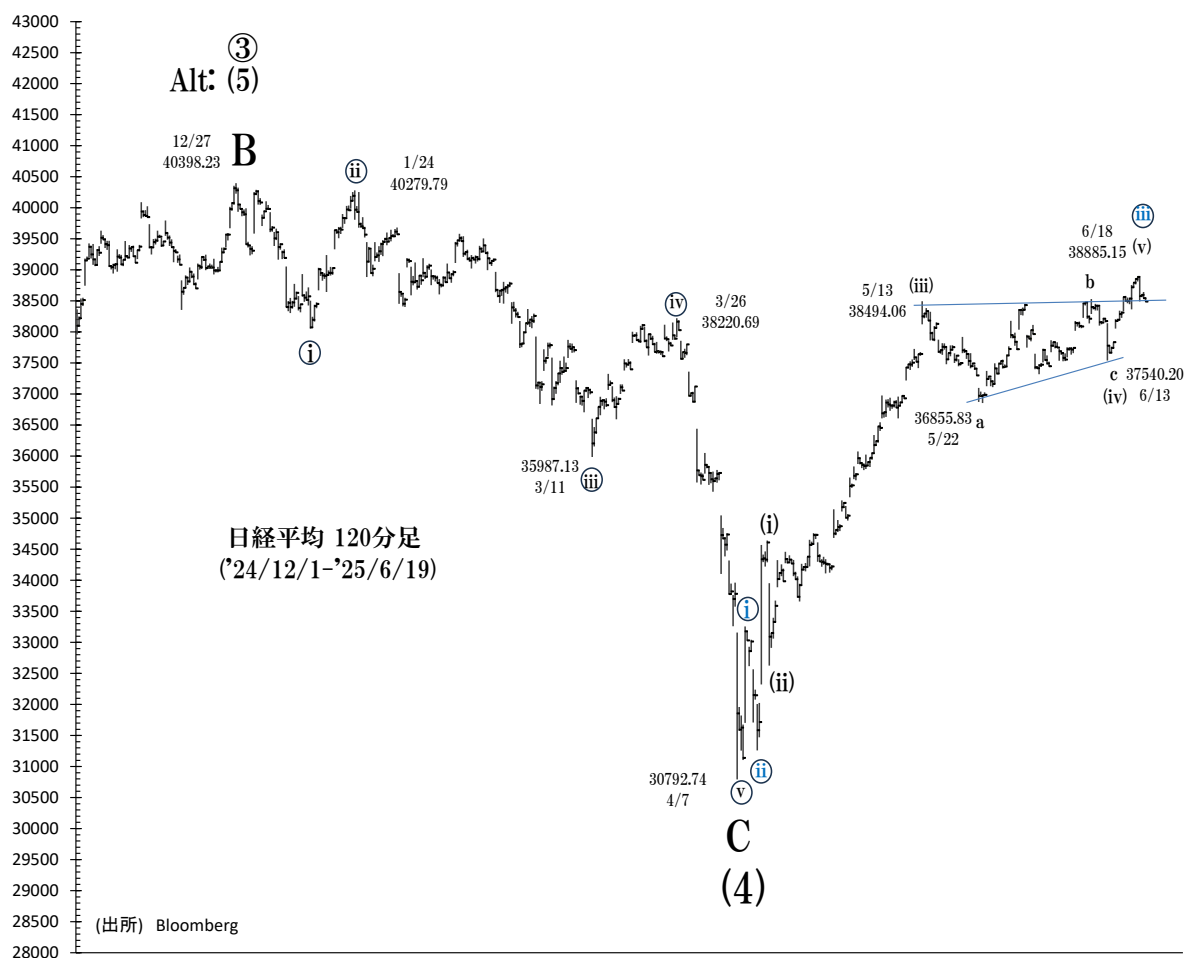
日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇を展開中とみられます。第(5)波は、20 年 3 月コロナショック底(16358.19 円)からのラリー中「最後の上昇」に相当します。

順当にいけば、第(5)波は 24 年 7 月高値(42,426.77 円)を上抜き史上最高値を更新するでしょう。

以下のように好調な需給要因が、引き続き第(5)波上昇に寄与することでしょう。

①旺盛な自社株買い(日経新聞によれば今年 1～5 月に設定された自社株買い枠は 12 兆円に上りました)。6 月第 2 週まで、**事業法人は 11 週連続で買い越し**しています。②米ドル離れ・円高傾向を受けての海外マネー流入。6 月第 2 週まで、**海外投資家は現物株を 11 週連続の買い越し**です。そして 6 月末にかけて 10 兆円規模で支払われる見込みの③配当の再投資。





【日足・時間足 エリオット波動分析】

[TOPIX]

200 日 MA を明確に上回っての推移が続きます。TOPIX は上昇基調の 200 日 MA をサポートに、引き続き年初来高値 2821.90 (3/26) を試す地合いが続くでしょう。

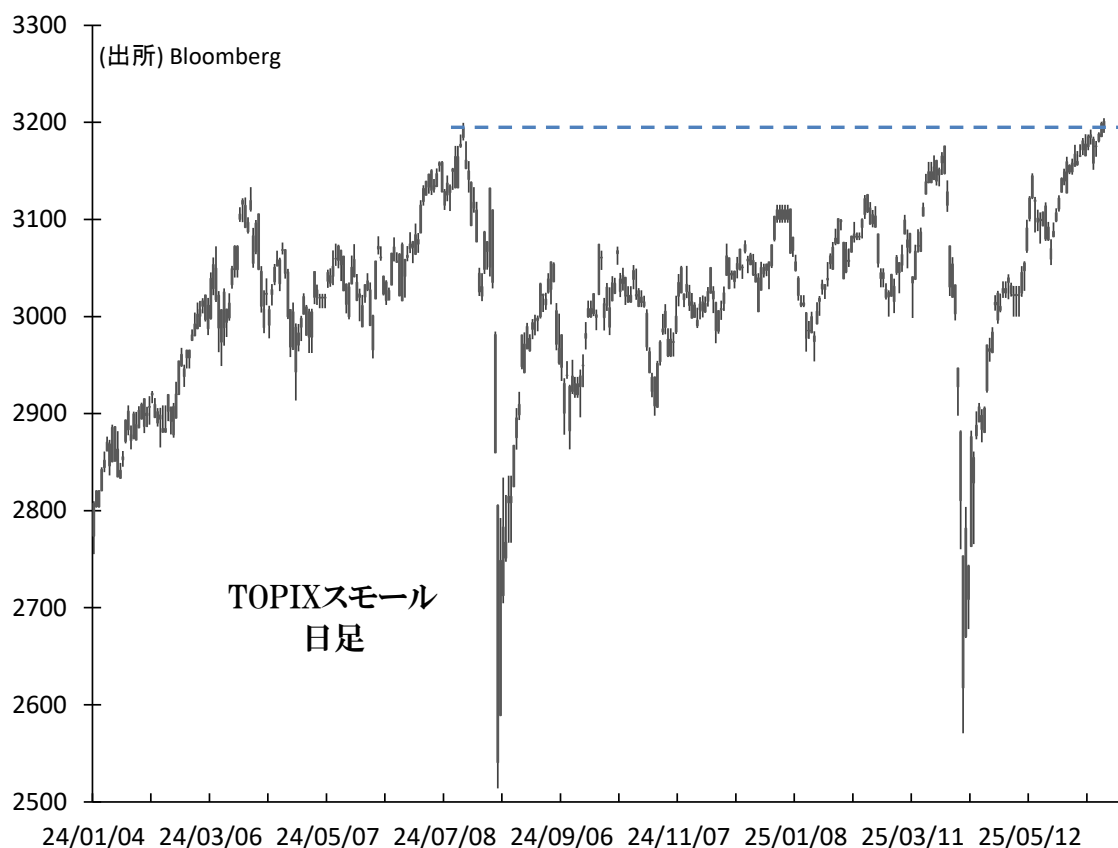
年初来高値を更新すると、いよいよ 24 年 7 月の過去最高値 (2946.60) 試しが視野に入ります。

[日経平均]

6 月 18 日は一時 38,885 円と 4 カ月ぶり高値を更新しました。現在、ミヌエット級第(v)波による上昇が進行中とみられ、その想定レンジは[39,681 円-40,671 円]です。

ちなみに昨年 8 月「令和のブラックマンデー」(8/5)以来の出来高分布をみると、3 万 8000 円～3 万 9500 円での取引量が特に多いことから、この価格帯での戻り売り圧力は強そうです。

逆に 3 万 9500 円を超えてから、日経平均の上昇は加速する可能性があるでしょう。



TOPIX スモール指数が高値更新

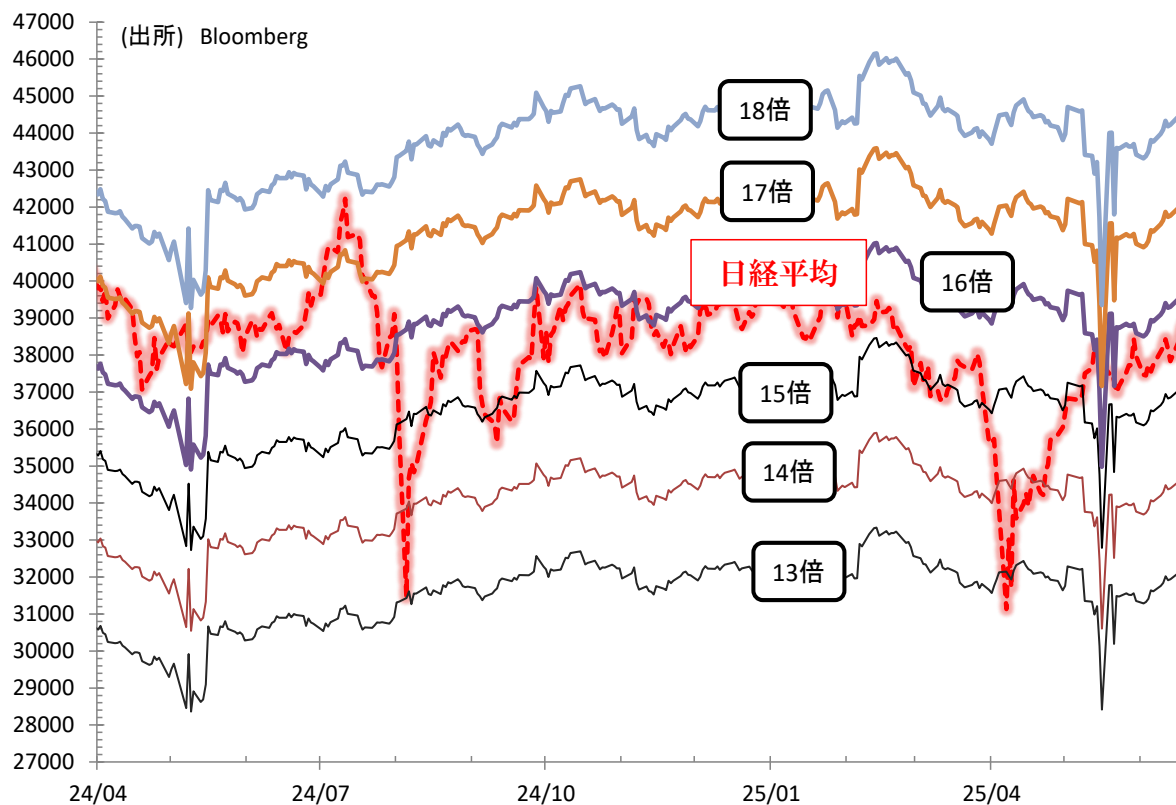
6月18日、TOPIX スモール指数は24年7月高値(3199)をついに上抜きました(翌19日も一時3204まで上昇)。このようにスモール指数は、TOPIX や日経平均に先んじバブル経済崩壊後の最高値を連日で更新しています。また今週は、TOPIX ミッド 400 指数(図表は示さず)が過去最高値を更新しました。

このように物色の矛先は、従来の大型株中心から中小型株へ向いています。これは相場全体が上昇サイクル終盤にあることの傍証といえそうです。

[予想 PER 別の日経平均水準]

6 月 19 日の日経平均予想 PER は 15.58 倍・予想 EPS は 2470 円。

過去最高の EPS は 2564 円(2/13)です。



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ日足 エリオット波動分析】(6月19日は休場)

36,611ドル(4/7 安値)からは第(2)波によるリバウンドとみられます。

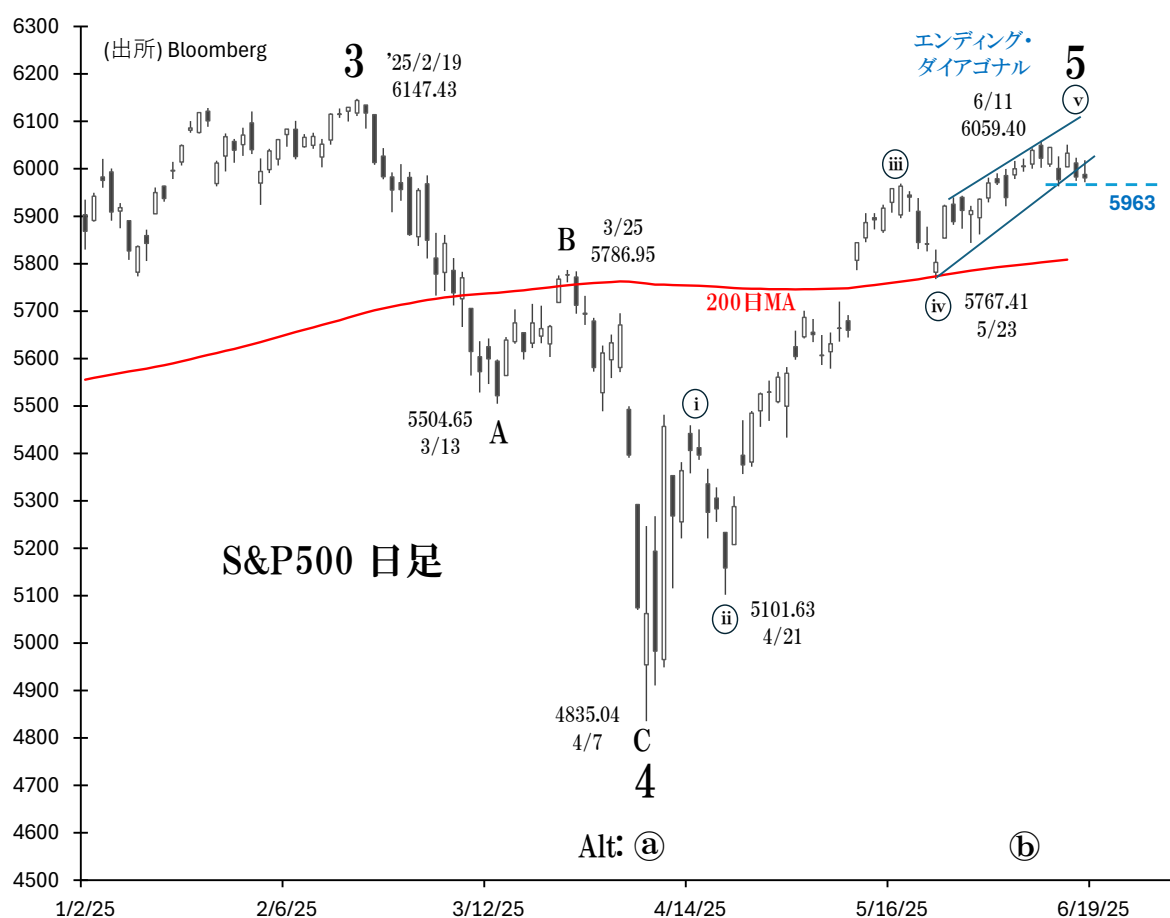
6月11日高値(43,115ドル)は24年高値からの下げに対する76.4%–78.6%戻り[43,076ドル–43,262ドル]に相当し、水準面では達成感が充足されやすいところです。

第(2)波が完了するかを見極める局面です。42,606ドル(6/12 安値)を下抜くと、最初の弱気シグナルが点灯し、第(3)波下げトレンド入りの可能性があります。

(オルタナティブ・カウント)

22年10月安値(28,660ドル)以来の五波構成による上昇(＝プライマリー級第⑤波)は、今年4月安値から最後の上昇(＝インターミディエイト級第(5)波)が進行中です。

通常、第(5)波は高値を更新するものですが、今回のケースでは、諸々の事情がそれを許さないかもしれません(ダウ輸送株平均や公共株平均など、先行して弱気相場入りの可能性が高い)。第(5)波が短縮される可能性に留意したいところです。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

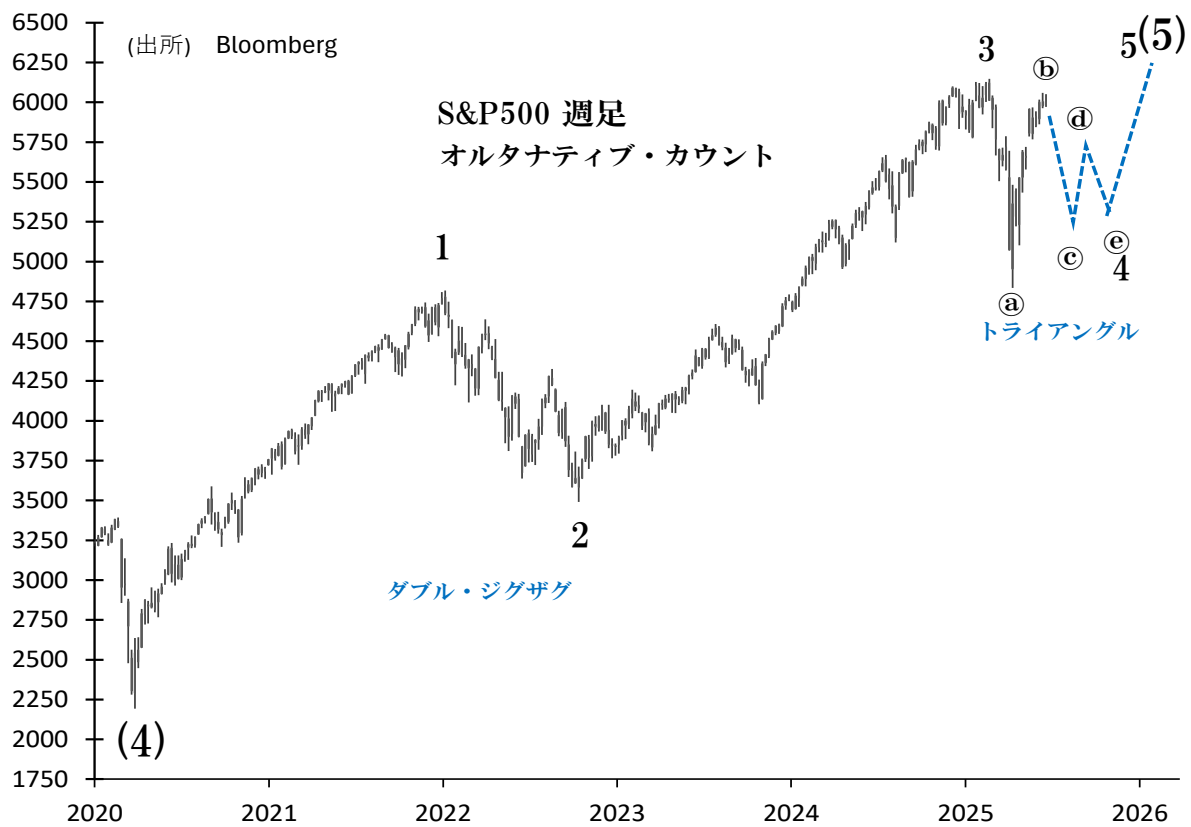
(プリファード(優先)・カウント)

4 月安値からインターミディエイト級第 5 波による上昇が進行しています。5767(5/23 安値)以来で上昇する楔「エンディング・ダイアゴナル」が出ていますが、それは最終高値の接近、及びその後の急反落の可能性を示すものです。5963 を下抜くと最初の弱気シグナルが点灯し(6 月 18 日は一時 5971 に下げました)、トレンドの下方転換が示唆されます。この場合、指数は速やかに 5767 へ下落する可能性があります。

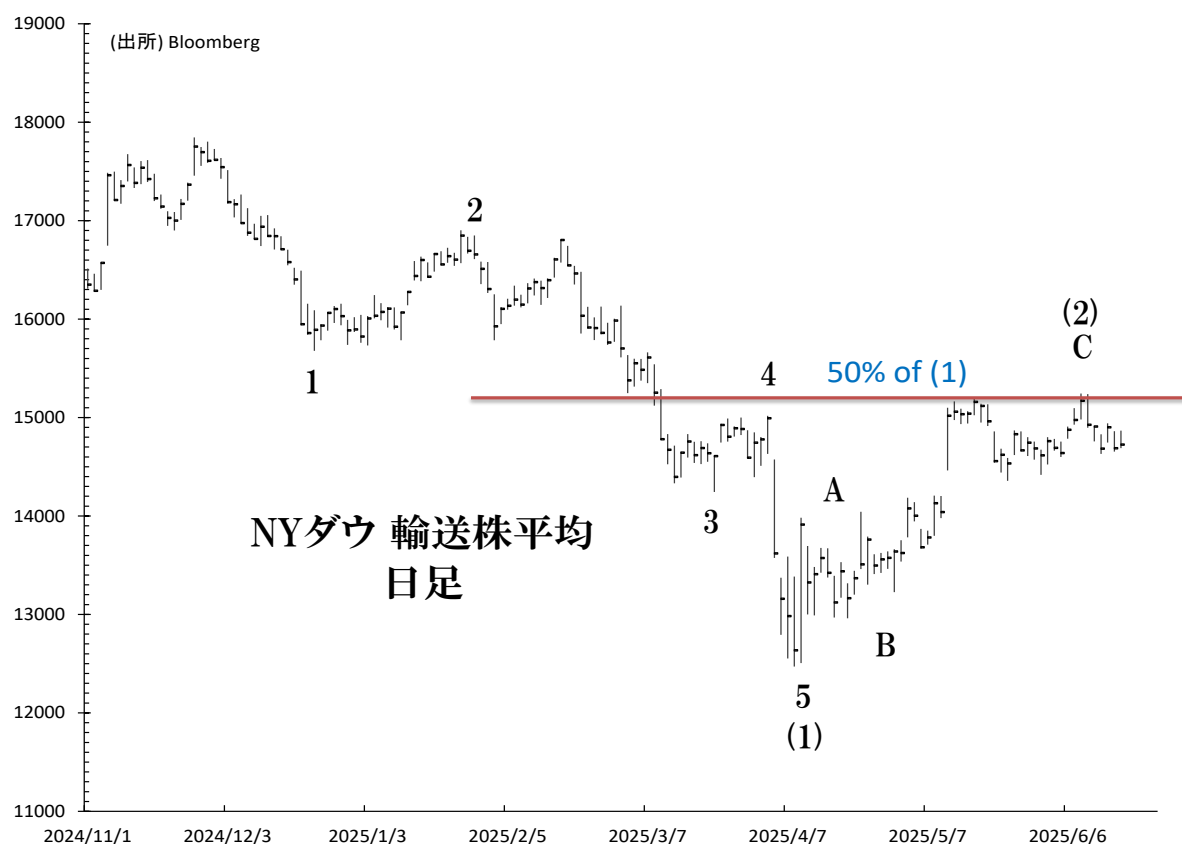
(オルタナティブ・カウント)

6147(2/19 高値)からの第 4 波は、第 2 波(21 年末～22 年 10 月)の「ダブル・ジグザグ」と交代(オルタネーション)し、「トライアングル」「フラット」など複雑な保ち合い構造となっていくます。

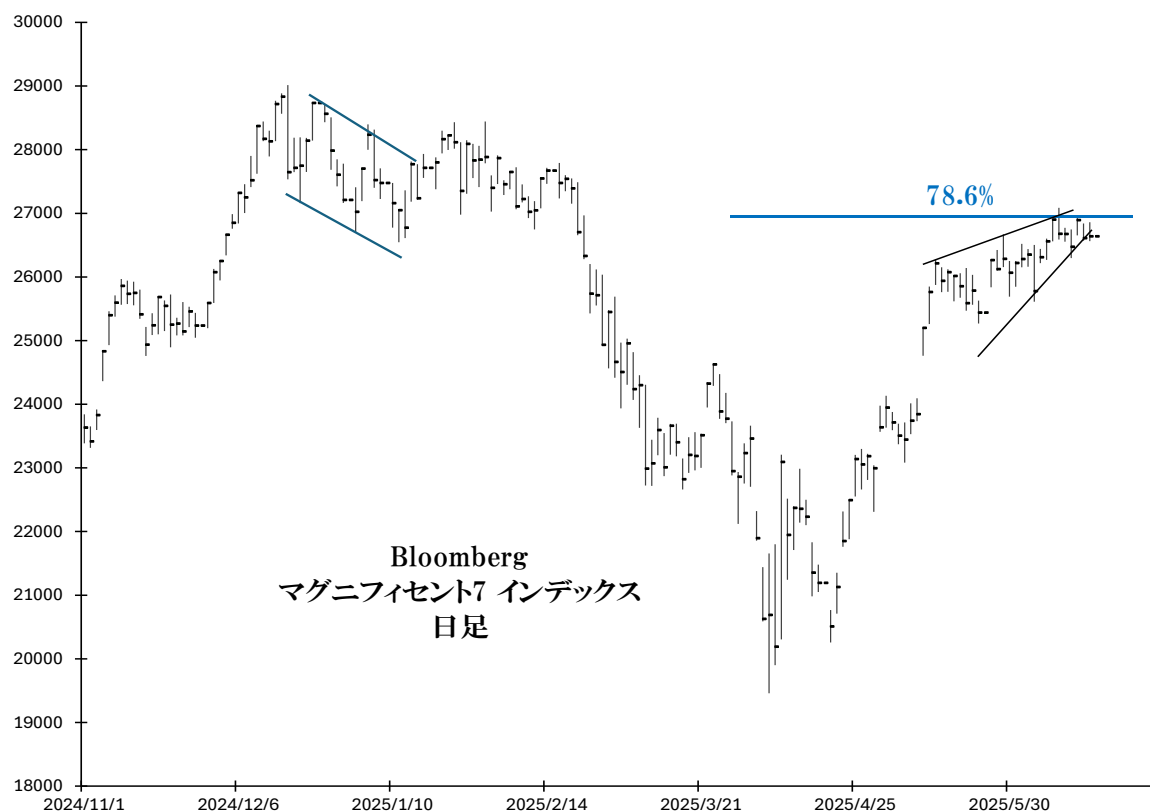
仮に「トライアングル」を想定すると、4 月からの上昇はパターン中⑥波です。まもなく⑥波は終わり⑦波の下げが始まり、それは⑥波上昇分の 60%～70%を打ち消すでしょう。



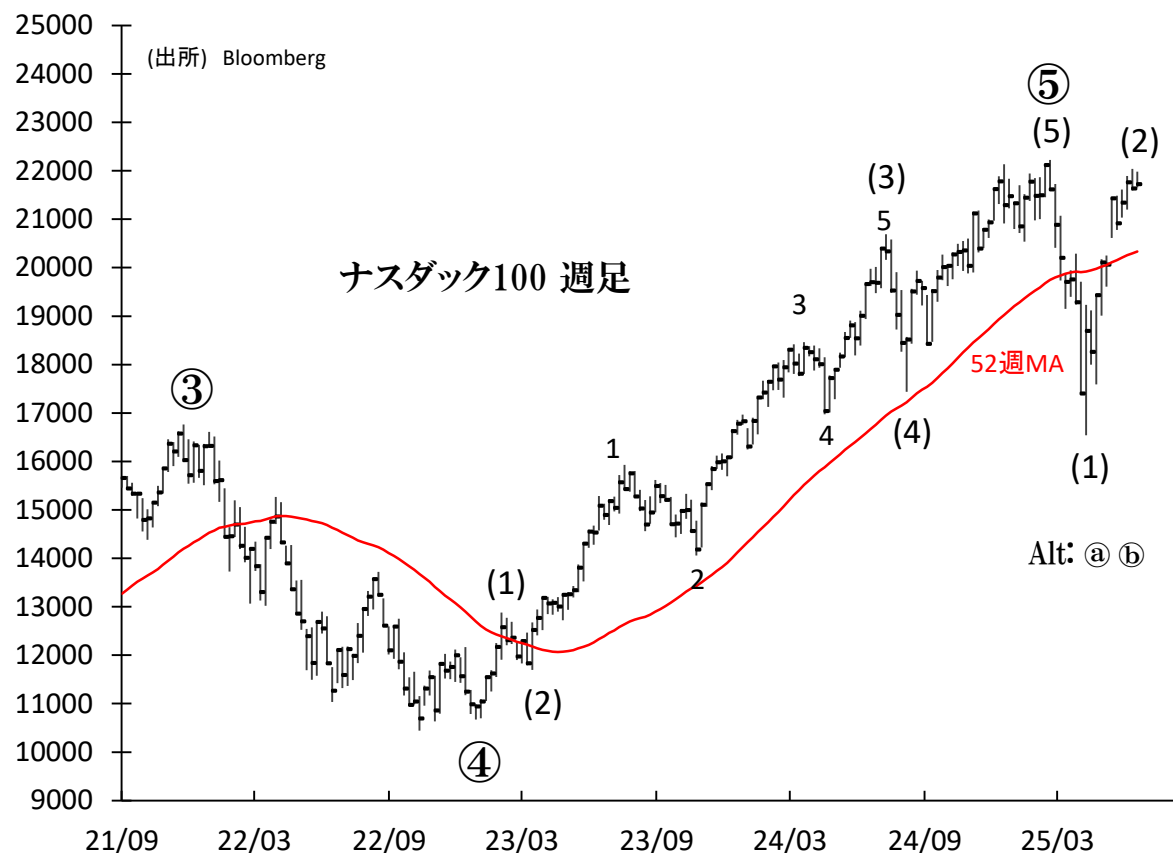
【ダウ輸送株平均】 半値戻り水準でダブル・トップ完成か？



【マグニフィセント 7】「エンディング・ダイアゴナル」からの下放れ接近？



ナスダック



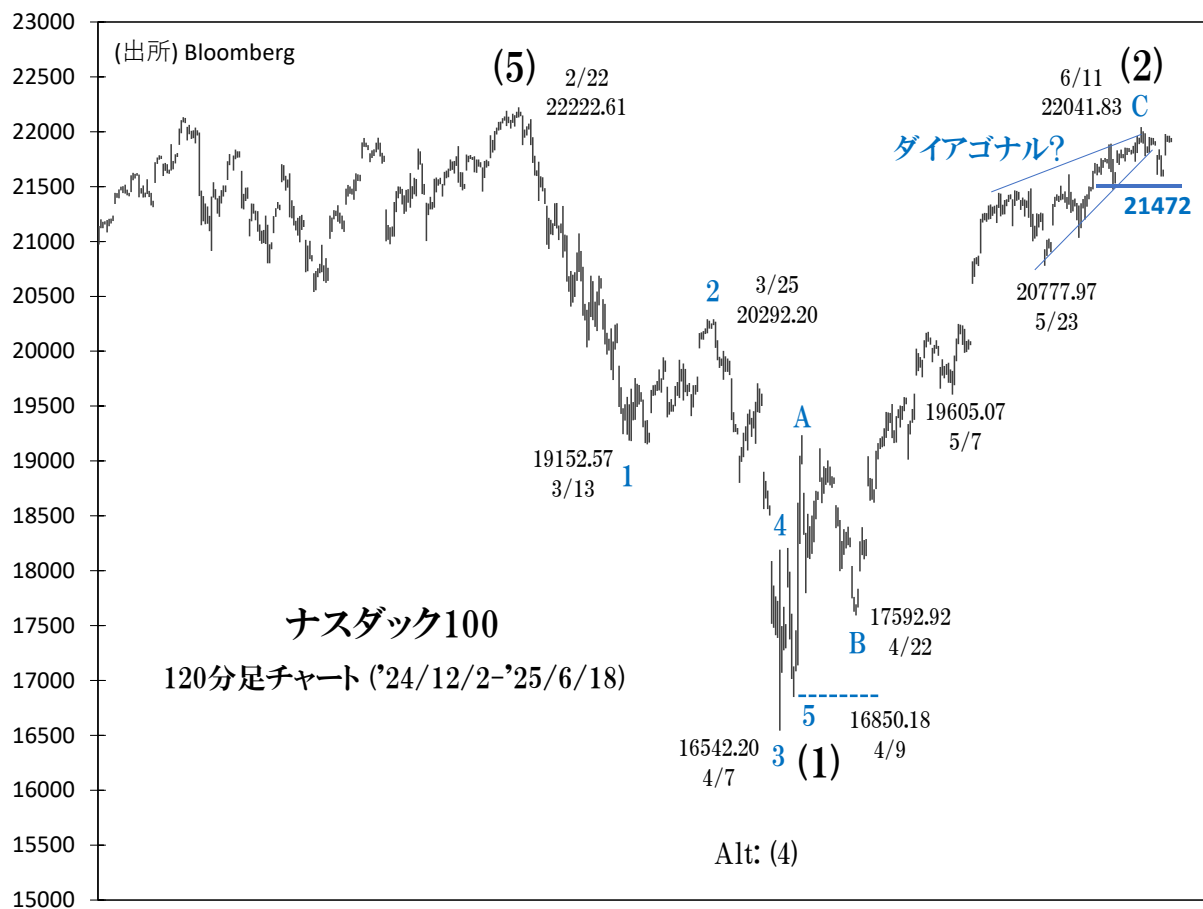
【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】(6 月 19 日は休場)

ナスダック 100 は 25 年 1 月高値(22,222)以来、サイクル級の調整局面にあるとみられます。

ナスダック 100・総合指数は共に、ほぼ「全値戻り」となっています。

これら二つの指数は近いうちに、「ダブル・トップ」を形成し、そこから第(3)波の下落に入るでしょう。第(3)波によりナスダック 100 は、4 月安値 16,542 を大きく下回るでしょう。

オルタナティブ・カウントは、4 月安値からの上昇は第(5)波というもので—前の波に比べ第(4)波が大きすぎる点に違和感がありますが—ナスダックは高値を更新することが予想されます。それを以て強気相場は終了し、調整局面を迎えるでしょう。



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

20,777(5/23 安値)から形成される上昇する楔は、「エンディング・ダイアゴナル」の可能性がありますが。この見方によれば、ナスダック 100 の重要なトレンド転換が接近しています。

21,472 を下回ると最初の弱気トリガーが引かれ、先ずはダイアゴナル始点である 20,777 へ向けた急落となるでしょう。

一方 22,041(6/11 高値)を上回ると目先弱気シナリオはキャンセルされ、この場合は 2 月に付けた最高値(22,222)を打診するでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

2 月から 4 月までを三波構成(A-B-C)による下落とみなし、4 月安値 16,542 から第(5)波による上昇と認識します。このケースでは、ナスダック 100 は 2 月高値を上回るか、あるいは第(5)波が短縮する結果として「ダブル・トップ」を形成するでしょう。この第(5)波を以て、02 年以來の強気相場はすべて完了することになります。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

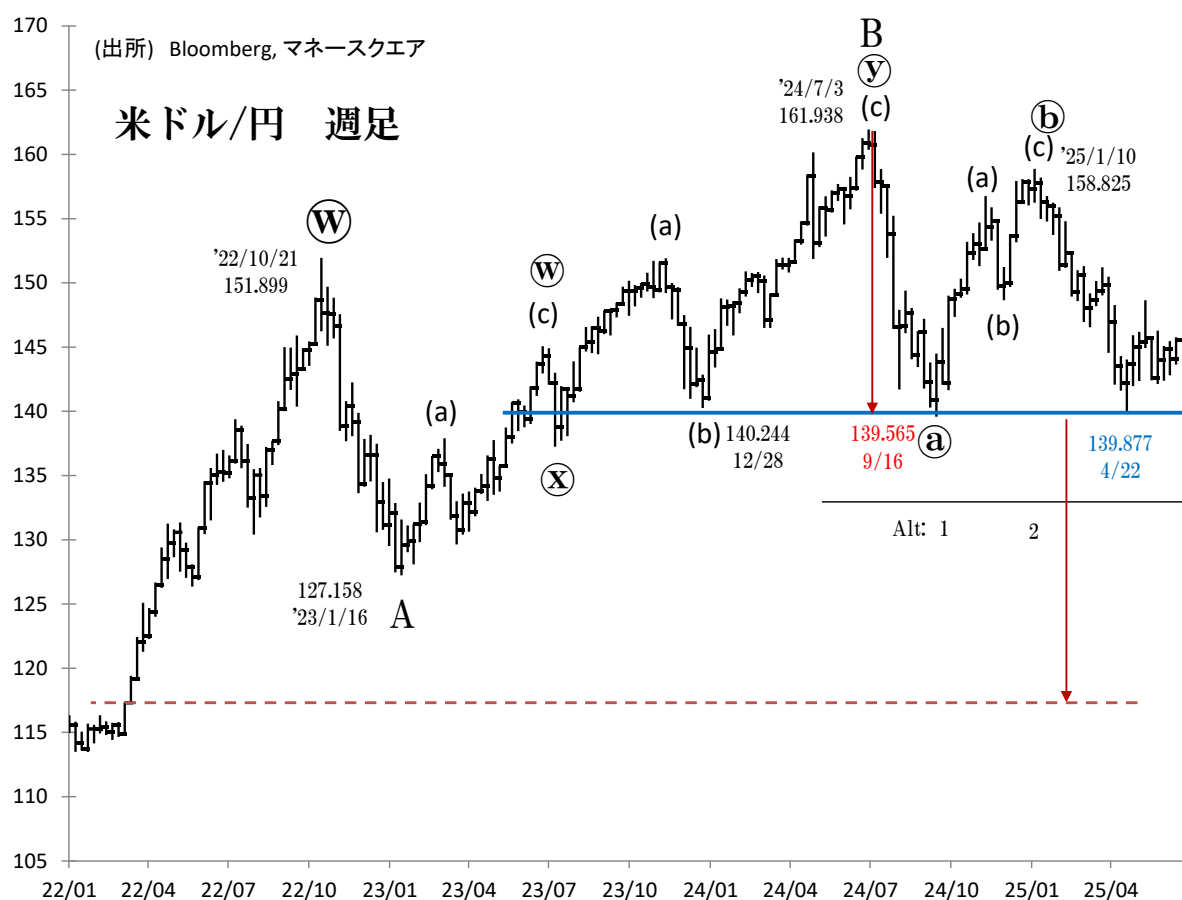
151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、まずは 2011 年からの上昇チャネルのセンターライン①136.935 円(6 月)がサポートレベルとみられます。

もっとも 139 円処を下抜くとヘッド・アンド・ショルダーズ型の天井パターンから明確に下放れ始め—上述したセンターラインで底入れせずに—フィボナッチ・サポートの[128.945 円]を試すと思われます。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は 117.310 円(6 月)です。



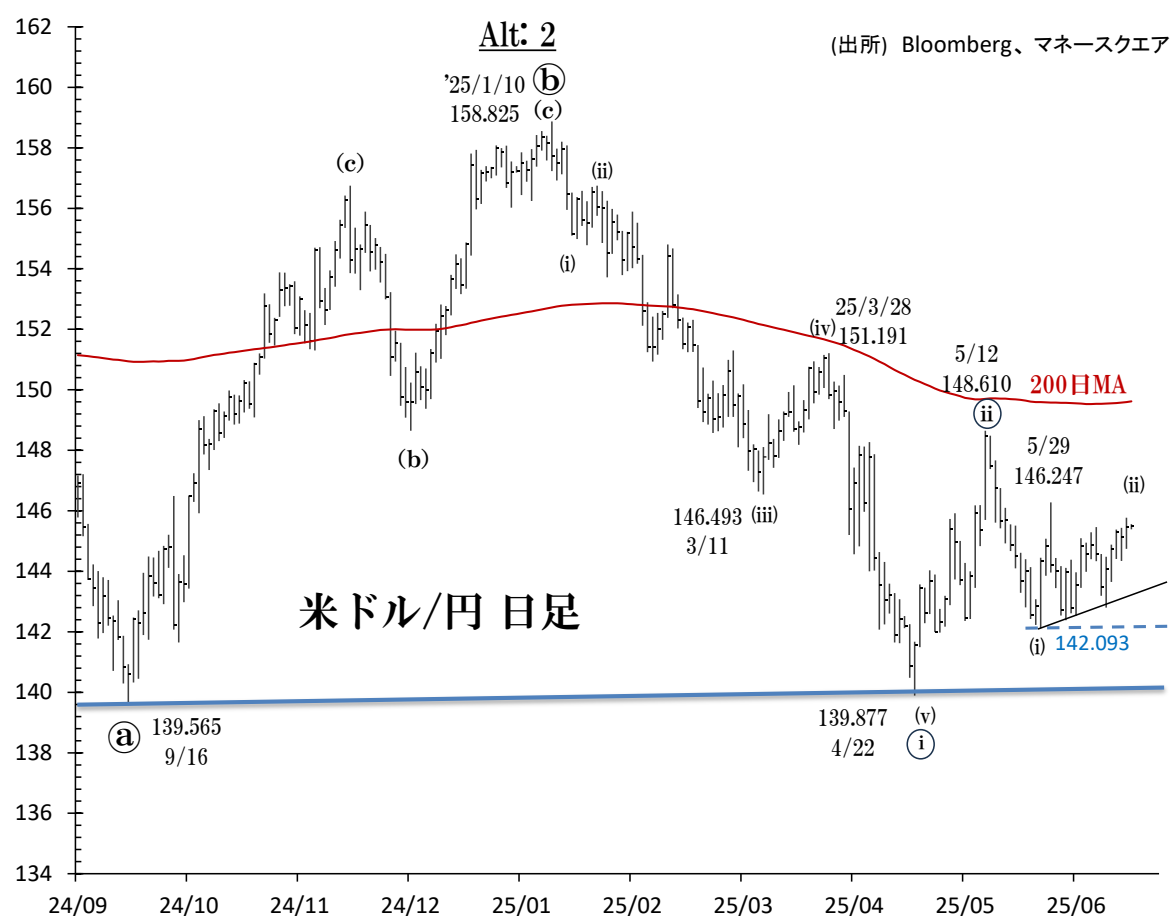
【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(24/7/3)からはC波によるドル安・円高トレンドが進行中です。このC波は(先ずは)三波構成((a)-(b)-(c))が想定され、158.825 円(1/10)から©波によるドル安・円高が進行中とみられます。

今年1月からのドル安・円高を、第3波による下落とみることもできます。現時点でサブシナリオですが、これによれば、先々1ドル=120 円試しが視野に入ります。第1波と第3波が黄金分割(1:1.618)比率関係になると仮定すれば、[122.625 円]という目標値が得られます。

ドル/円は2カ月近く、ネックライン近くで下げ渋っています。重要なチャートポイントを目前に、投機筋が円買い持ちをいったん利確していることも考えられます。

もっともドル安・円高の基調自体に変わりはなく、ヘッド・アンド・ショルダーズの垂直目標値からは、いずれ1ドル=120 円割れの可能性もみえています。



【日足 エリオット波動分析】

148.610 円(5/12)から、マル iii 波によるドル安円高が進行中とみられます。マル iii 波はミネット級の 5 つ波に分波します。

142.093 円(5/27)からはマル iii 波中第(ii)波のリバウンドに当たりますが、それはまだ続いているようです。この見方通りなら、ドル/円は短期的に 146.250 円に戻るか、あるいはそれを少し上回りますが、その動きを以て第(ii)波は終わるでしょう。

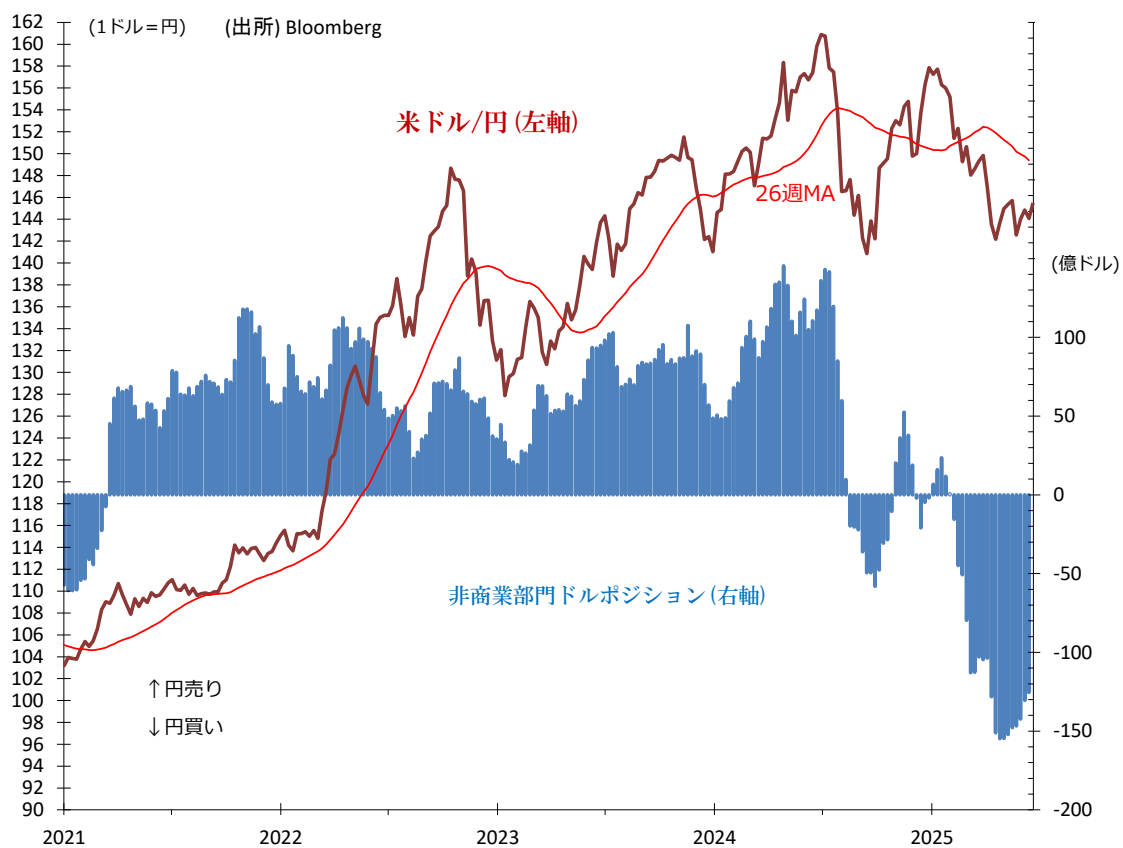
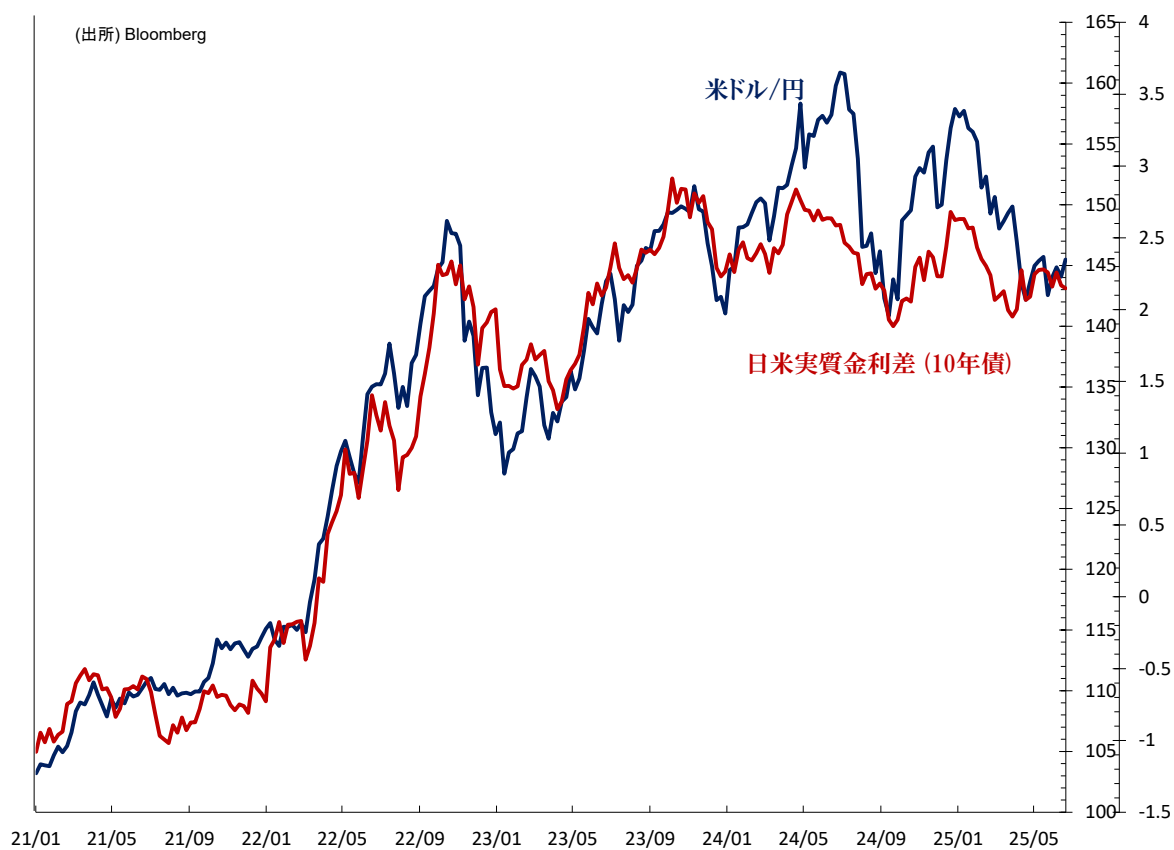
第(ii)波を終えると、次は第(iii)波のドル安・円高となります。第(iii)波によりドル/円は 139.877 円(4/22)を明確に下抜くでしょう。

金利差からのドル/円推計値

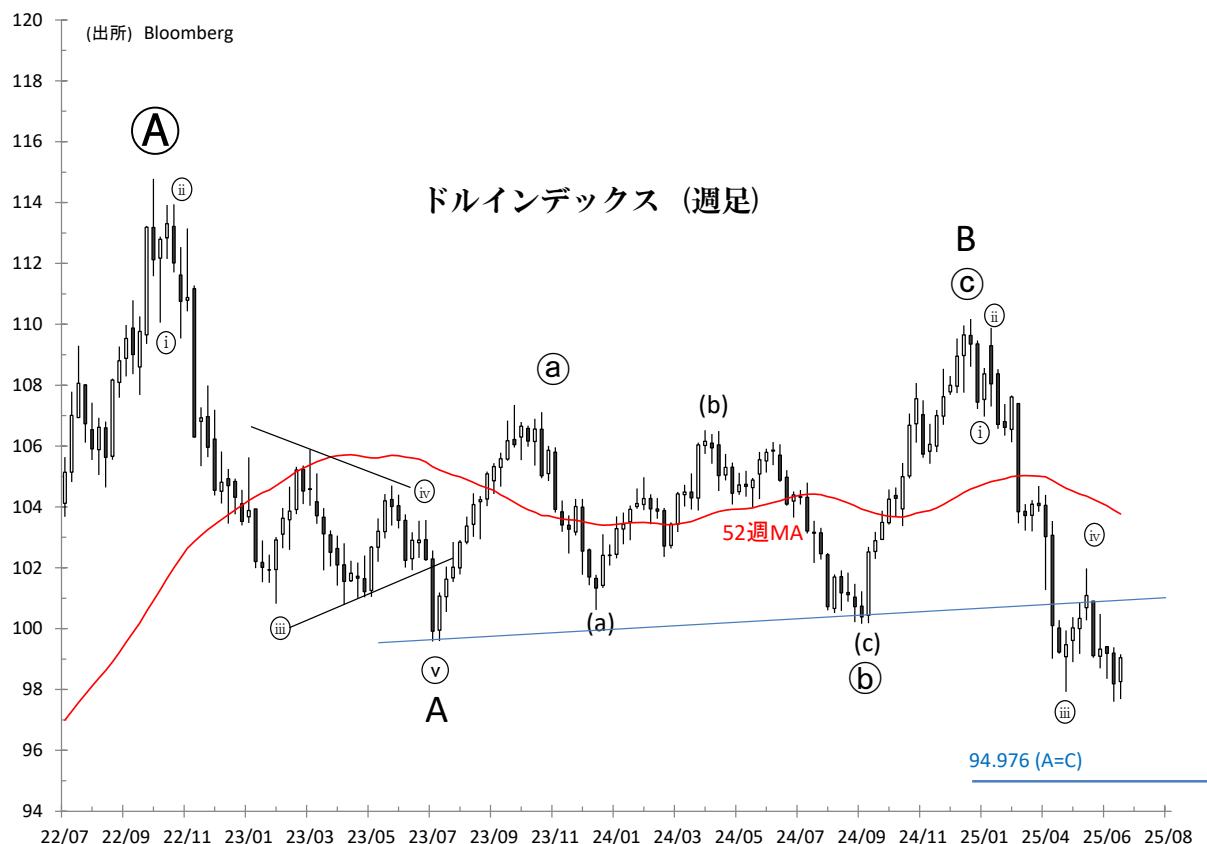
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[145.366 円]です。

投機筋の円買い持ち高が 6 週続けて縮小(2025 年 6 月 10 日時点)

IMM 通貨先物市場で投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 131.2 億ドルから 124.5 億ドルへ 6 週続けて縮小しました。



ドルインデックス (ドル指数)



【エリオット波動分析】

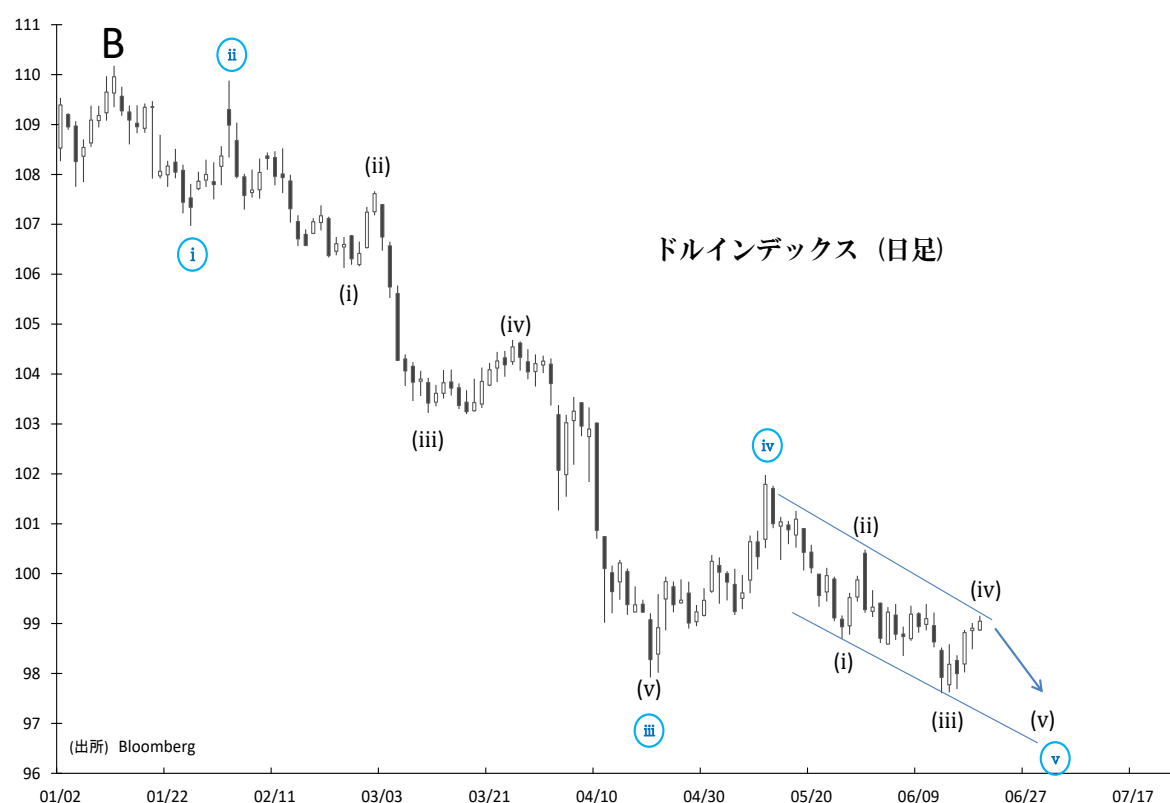
110.176(1/13 高値)からは C 波によるドル安が進行中。C 波の副次波(マル i～マル v 波)のうち、101.977(5/12 高値)からのドル安はマル v 波に相当します。

6 月 12 日に、3 年 3 カ月ぶりのドル安(97.602)を付け、そこから反発の動きがみられます。

マル v 波全体のフォーメーションは「エンディング・ダイアゴナル」かもしれません。この見方によると、足元のドル高はマル v 波中第(iv)波と捉えられ、あと一回のドル安波動(第(v)波)を以て年初からのドル安 C 波は完成することになります(日足チャート参照)。

C 波完了後は、おそらく数カ月間にわたるドル高になるでしょう。

ただしそれはあくまで反発に過ぎず、中長期タームでのドル安の流れ自体は継続するとみています。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

- ・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。
- ・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。
- ・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
